

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	愛知県	市町村名	名古屋市	大学名	
派遣日	令和3年12月20日(曜日) 14:00~15:20				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	名古屋市教育館				
アドバイザー氏名	豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育相談員 築樋 博子 様				
相談者	母語学習協力員及びスーパーバイザー、初期日本語集中教室指導員及び企画指導員、日本語学習支援コーディネーター				
相談内容 (講義内容)	演題:「母語を活かした日本語指導」 1 公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数の推移 2 外国人児童生徒等の日本語習得の特徴 3 来日直後の子どもの学習における困り感 4 日本語中期の子どもの学習における困り感 5 文部科学省「JSLカリキュラム」 6 日本語指導を通じて育成する力				
派遣者からの指導助言内容	<input type="radio"/> 外国人児童生徒等の日本語習得の特徴 <input type="radio"/> 学習における困り感 <input type="radio"/> 日本語中期の子どもの学習における困り感 <input type="radio"/> 「JSLカリキュラム」 <input type="radio"/> 日本語指導を通じて育成する力				
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 講義において豊橋市教委で実施している初期教室での指導内容について、生徒の取り組んだ学習プリントや授業動画を示していただいた。豊橋市の初期教室では、中学生を対象に実施されており、教科の学習と日本語学習とのつながりを意識して実施されている点が大変参考になった。本市の初期教室や通級指導教室は、校種や学年にこだわらず個別で指導を行っている。参加する子ども一人一人が日本語の習得の伸張を図れる点では、大変有益ではあるが、通っている子どもたちが共通の課題(特に探究的な活動)に取り組むような学習はなかなか進めることができていないため、子ども同士で成果を認め合うことがなく、達成感を得づらいことも考えられる。今後、初期教室におけるカリキュラムを検討する際の参考としたい。</li><li>・ また、母国と日本の教科の技能の違いによる困難さについても教えていただいた。算数の筆算のやり方も国によって様々であったり、技能教科の学習経験の有無も多様であったりすることから、子どもが母国においてどのような形で学んできたかを把握する必要があることを教えていただいた。母語学習協力員は、日頃学校で勤務しているので、各学校での取り出し指導の際に子どもの母国での学習履歴を意識した支援をすると共に、学校の教職員にもその子どもの学習履歴について情報共有することで、子どもの理解が進むことが考えられるため、各校内での打合せ等で意識していきたい。</li><li>・ さらに、JSLカリキュラムについてもお話しいただいた。JSLカリキュラム</li></ul>				

(様式3)

	<p>における学習参加のための5つの支援のうち、「理解支援」があるが、すべて母語で支援するのではなく、子どもの発達段階や日本語獲得状況で変えるということを教えていただいた。母語学習協力員は、日頃の支援の中で意識していくべき点である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 何よりも、講義全体を通して、築樋先生の日本語教育への情熱と、外国にルーツのある子どもたちへの愛情とを感じる事ができた。初期日本語集中教室で指導にあたる者も、各学校に勤務する母語学習協力員も先生と同じ強い思いをもって、それぞれの立場で子どもたちと関わるよう努めたい。</li></ul>
--	---

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、[文部科学省ホームページ](#)で公開いたします。